

ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 准教授</p> <p>川 上 英 明 (かわかみ ひであき)</p> <p>KAWAKAMI Hideaki</p>
所属	保 育 科
学位	博士 (教育学) (東京大学)
資格・免許	小学校教諭一種免許状 全国保育士養成協議会認定保育実習指導者
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>2016年 3月 宮城教育大学教育学部初等教育教員養成課程 言語・社会系社会コース 卒業 (学士 (教育学))</p> <p>2018年 3月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース修士課程 修了 (修士 (教育学))</p> <p>2022年 1月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース博士課程 修了 (博士 (教育学))</p> <p><職歴></p> <p>2018年 4月 国際テレビシティ小山看護専門学校 兼任講師 (2019年3月まで)</p> <p>2020年 4月 横浜保育福祉専門学校 兼任講師 (2021年3月まで)</p> <p>2021年 4月 山梨学院短期大学保育科 専任講師 (2023年3月まで)</p> <p>2021年 4月 山梨学院大学健康栄養学部 兼任講師 (現在に至る)</p> <p>2023年 4月 山梨学院短期大学保育科 准教授 (現在に至る)</p>
担当科目	<p>教育原理 道徳教育の理論と方法 教育職論 現代文化論 地域学校経営論 教育哲学 教育学特論 道徳教育特論 家庭問題特論Ⅱ (分担) 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ 修了研究 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ (保育所) 保育実習Ⅰ・Ⅱ (保育所) 道徳教育指導論 (山梨学院大学健康栄養学部)</p>
専門分野	教育哲学・教育思想史
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・京都学派の哲学と教育学に関する思想史研究 ・金子文子のアナーキズムと教育思想 ・哲学プラクティスの理論と方法
競争的資金等の研究課題	<p>・「京都学派教育学」における教育と政治の関係をめぐる思想史的研究 (日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究 2023年4月～2028年3月 課題番号 23K12726)</p>
所属学会	<p>日本教育学会 教育哲学学会 教育思想史学会 幼児教育史学会 日本哲学プラクティス学会 実存思想協会 ハイデガー・フォーラム</p>
メッセージ	<p>保育の実践知と原理的な知とをつなげる、生きた知識の獲得を目指してください。また、保育者・教育者である以前に、一人の市民として、教養を身につけ、自ら判断し、問題を解決する姿勢を持つことを期待します。</p>

教育	
2023年4月～2024年3月	
教育方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広い社会性と深い臨床性をあわせもつ保育者・教育者の養成 ・ 自律的に考え責任をもった判断と協調的な行動ができる社会人の育成
授業	<p>授業の工夫</p> <p><教育原理> 「教育とは何か」「教育はいかなる営みなのか」という原理的な問いから、教育格差、教員の働き方、LGBTQの子どもの関わりなどの実践的な問題までを扱い、学生が教育の原理的な考え方に入門できるように心がけた。授業終了後に毎時間、小レポートを課し、それに対する回答を次回授業の冒頭で行うことで、卒業必修で受講生が多い講義であるにもかかわらず、双方向的なやり取りができるように工夫した。</p> <p><教育職論> 小学校教諭という職業に関する基本的な知識から、教師に関する社会問題や哲学的な議論まで、幅広く紹介するように心がけた。なお、哲学的な議論については、補助教材として映像資料を活用し、理解を深めさせるように工夫した。</p> <p><現代文化論> 現代文化を対象とした哲学的・社会史的な考察や批評を行う講義形式の授業の他に、受講生が自らプレゼンテーションをする機会を設けた。そうすることで、自身が関心を持つ事柄について、どのようにして他者に情報を伝えればよいのかということを考えさせるように心がけた。</p> <p><教育哲学> 哲学に触れる機会が少ない学生も取り組みやすいように、授業では、「哲学ウォーク」や「哲学対話」を取り入れた。また、グループでのプレゼンテーションを課し、「プラトンの洞窟の比喻」「デューイの経験主義」「「発達」の思想と歴史」などのテーマについて調査し発表するアクティブ・ラーニングを取り入れた。</p> <p><教育学特論> 京都学派の教育学をテーマに、毎回一名の教育思想家を取り上げ、その思想の背景や内容を概説した。あえて教育（哲）学という学問的な概念や思考に触れることで、自らの保育・教育実践を客観的に振り返る機会になることを心がけた。講義資料は、A4用紙4ページまでの分量に抑え、各思想家の思想のエッセンスを、具体的な場面も想定して解説した。</p>
	授業改善のための取組

教育 (つづき)		
2023 年 4 月～2024 年 3 月 (つづき)		
	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	<p><卒業演習 I ></p> <p>2023 年度は数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの全学的実施に伴い、ゼミとしての独自の活動をする時間を十分に取ることができなかった。しかし、限られた時間の中で、映画『his』(今泉力哉監督、2020 年)を鑑賞した上で、哲学対話の手法を用い、性的マイノリティの生きづらさや、夫婦の不和とそれが子どもに与える影響などについてのディスカッションを行った。</p> <p><卒業演習 II ></p> <p>前期は、卒業レポートのテーマを構想させ、後期からの執筆に向けた準備をさせた。後期は、各自の研究テーマについての先行研究の収集・調査や、調査方法の検討、執筆に際する注意事項などを、基本的には個別に指導した。</p> <p><修了研究 ></p> <p>1年間を通して、研究テーマの焦点化、先行研究の収集と分析、アンケート調査やインタビュー調査の項目の検討、実践記録の方法の検討、修了論文の構成の検討などを、基本的には個別に指導した。なお、後期はそれと並行して、西田幾多郎の論文「教育学について」を輪読し、京都学派の教育学の基礎文献を読解した。</p>
ゼミ	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<p><卒業レポートテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭の抱える問題と必要とする支援——ひとり親家庭の保護者に寄り添うために ・性的マイノリティに関する保育科学生の意識調査 ・家庭環境が及ぼす子どもへの影響 ・保育における「子どもの哲学 (p4c)」の可能性——子どもたちの主体性を育むために ・地下アイドルは地上世界の夢を見ない——彼女たちと SNS の関係性 ・児童虐待と虐待をする親の心理 ・女性のジェンダーについての認識——周りの環境が及ぼす影響 ・山梨県の高校における「ブラック校則」の現状【共同研究】 ・幼少期における褒められ・叱られ経験と自己肯定感の関係性について <p><修了研究テーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉橋惣三における個と集団の関係性をめぐる問題 ・小学校高学年の児童における情報リテラシーの意識に関する現状と課題 ・偏食に対する教師の指導の実態に関する調査 ・男性保育者及び男性保育科学生の保育職に対する意識に関する調査 ・幼児教育における ICT 活用の現状と課題

教育 (つづき)		
2023年4月～2024年3月 (つづき)		
課外活動	2024年2月 専攻科ゼミの指導学生が、全国保育士養成協議会関東ブロック協議会主催の「第37回学生研究発表会」において研究成果を発表した。	
2023年3月以前		
主な教育業績	2022年4月 短期大学バスケットボール部 顧問 (現在に至る)	
研究		
2023年4月～2024年3月		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(著書) 安部孝編『教育原理——教育・保育をひらく』 (共著)	2024年 3月	みらい 担当部分:第7章 日本の教育の思想
(その他:実践報告) 査読付き 幼稚園および小学校教員養成課程における哲学プラクティスの意義と課題—「哲学ウォーク」と「子どものための哲学 (p4c)」の実践についての省察— (単著)	2024年 3月	『山梨学院短期大学研究紀要』 第44巻
(その他:書評) 山田真由美著『京都学派の教育思想——歴史哲学と教育哲学の架橋』 (単著)	2023年 9月	教育思想史学会『近代教育フォーラム』第32号 (166-169頁) (学会依頼)
(その他:学会発表 (フォーラム報告)) 京都学派教育学の〈亀裂〉—木村素衛と森昭、あるいは形式的表現と政治的実践の対立の根底— (単独)	2023年 9月	教育思想史学会第33回大会 (於:同志社大学、招待あり)

研究 (つづき)		
2023年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) <u>査読付き</u> 久野収における〈教育と政治〉をめぐる問題 構制—彼の道徳教育論とその特質に着目し て— (単著)	2023年 3月	『山梨学院短期大学研究紀要』 第43巻 (43-54頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 大正生命主義の思想圏における木下竹次の 合科学習—「総合的な学習／探究の時間」の 思想史のために— (単著)	2022年 3月	『山梨学院短期大学研究紀要』 第42巻 (31-42頁)
(学術論文) 京都学派の緊張と教育学への越境 —田邊元の哲学と森昭の教育思想— (単著)	2022年 1月	東京大学 (博士論文)
(学術論文) <u>査読付き</u> 田邊元と森昭における偶然性の問題—戦後 教育学の発達論に伴う必然性を相対化する ために— (単著)	2021年 12月	日本教育学会『教育学研究』 第88巻第4号 (610-621頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 田邊元と森昭の経験主義批判における認識 論の問題—京都学派教育学における「行為 的自覚」の系譜— (単著)	2021年 9月	教育思想史学会『近代教育フォーラ ム』第30号 (147-157頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 森昭における社会性と個性をめぐる問題 構制—田邊元のハイデガー批判との関連性 — (単著)	2020年 11月	教育哲学会『教育哲学研究』 第122号 (1-19頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 人間生成の歴史性と自然性—京都学派の思 想圏における森昭のハイデガー解釈— (単著)	2020年 9月	日本教育学会『教育学研究』 第87巻第3号 (367-378頁)

研究 (つづき)		
2023年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) A Philosophical Study on Evidence-based Education and "Subjectification": Exploring a New Conception of Citizenship Education in an Age of Measurement (共著)	2020年 3月	『東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター研究紀要』第5号 (34-42頁) (Hideaki Kawakami, So Fujieda, Naoki Tanabe, Hiromu Higuchi, and Yu Iwase)
(その他: 書評) 田中每実著『啓蒙と教育——臨床的人間形成論から』 (単著)	2022年 9月	教育思想史学会『近代教育フォーラム』第31号 (168-171頁) (学会依頼)
(その他: 学会発表 (ポスター)) <u>ピア・レビュー付き</u> The Tension Between Individuality and Sociality in the Philosophy of Education: Focusing on the Concept of Being-in-the-World in Martin Heidegger and Akira Mori (単独)	2019年 8月	World Education Research Association, 10th Focal Meeting (at Gakushuin University)
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2023年4月～2024年3月		
2023年 8月 山梨学院幼稚園 2023年度園内研修 講師		
2023年 4月 山梨学院高大連携事業 講師		
2023年 4月 やまなし幼児教育センター 幼児教育アドバイザー		
2023年3月以前 (主なもの)		
2023年 2月 山梨学院短期大学地域連携研究センター公開講座 (第11回) 講師		
2018年 11月 教育思想史学会第10期事務局 幹事 (～2021年3月)		
受賞 ※個人、所属団体		
2022年 9月 第19回教育思想史学会奨励賞 (個人)		